

事業概況（平成22年度）

平成22年度の当会の事業につきましては、府内JAをはじめ地域のみなさまのご協力のもと、事業収益は10,067百万円（前年対比△1,187百万円）、経常利益は1,992百万円（前年対比+197百万円）、当期剰余金は1,329百万円（前年対比+180百万円）を計上しました。

以下につきましては、各業務部門の報告です。

■金融推進業務

1. JA信用事業強化に向けた取り組み

JAバンク京都中期戦略（平成22年度～24年度）の初年度として、平成22年度JAバンク京都実践方策に掲げた基本目標の実現と経営数値目標の達成に向け、貯蓄増強・JAバンクローンの伸長・年金振込口座獲得等の府内統一運動を実施しました。

府内JA貯金残高は、1兆1,222億円（前年対比+1.9%）、貸出金残高は2,405億円（前年対比+0.4%）となりました。

2. 信頼されるJAバンク京都の確立

JAバンク基本方針に基づくJAバンクシステムの適正な運営に努めるとともに、中央会との統一的指導体制を構築し、JAの財務・体制整備モニタリングを実施しました。

■貯金業務

JAとの一体的な貯金増強運動や取引先への積極的な推進等により、期末の貯金残高は8,594億円（前年対比+1.9%）となりました。また、貯金奨励金として43億円を支払い安定的な還元に努めました。



■融資業務

地元企業や上場企業等へ積極的な営業活動を展開した結果、期末の貸出金残高は892億円（前年対比+6.5%）となりました。

また、農業融資については、農業金融センターを設置し、JAと連携して担い手等農業者へのアプローチ訪問や資金相談対応等に努めました。

■余裕金運用業務

短期資金については、系統預け金を中心に流動性を確保し、買入金銭債権等を併用した効率運用に努めました。

有価証券については、コアポートフォリオである金融債および地方債の定例取得の継続と国債を中心とした機動的な売買により収益確保に努めました。



また、変動利付国債で244億円、受益証券で28億円の残高圧縮を行い、ポートフォリオの改善を図りました。

この結果、期末残高は、預け金4,790億円（前年対比△9億円）、有価証券2,518億円（前年対比+46億円）、金銭の信託557億円（前年対比+60億円）となりました。

■ 為替決済業務

為替実務研修会や国庫金振込事務説明会の開催のほか、5 J A 53店舗を対象とした国庫金振込事務検査を実施し、事務処理能力の一層の向上に努めました。

また、J A 本支店間メールの送迎監視状況の一斉点検等、安全運行管理の強化に取り組みました。

府内全体の為替取扱高（仕向・被仕向）は、1兆3,254億円（前年対比+7.4%）、手形交換取扱高（持出・持帰）は595億円（前年対比△14.9%）となりました。